

第 16 回全日本少年軟式野球クラブチーム選抜大会 大会規定

(2026. 7. 6 確認)

1. 20 チームによるトーナメント方式とし、試合球は全日本軟式野球連盟公認 M 球（ケンコー球）とする。
2. 大会初日に 1 回戦 4 試合、2 日目に 2 回戦 8 試合、3 日目に準々決勝 4 試合、4 日目に準決勝・決勝を行う。
なお、3 位決定戦は行わない。
雨天等によって大会日程に変更が生じた場合は大会本部の決定に従うこと。
3. 試合は 7 回または 90 分で新しいイニングに入らないこととする。なお、準決勝・決勝は 7 回または 100 分で新しいイニングに入らないこととする。（後攻チームが攻撃中、勝っている時点でタイムアップとなった場合はタイミングを図り、試合を終了する。）
4. 規定時間及び回数までに勝敗が決着しない場合、「特別延長ルール」を適用し、最長 2 イニングまで行うものとする。ただし、準決勝・決勝は 3 イニングまで行うものとする。
それでも勝敗が決しない場合は抽選で勝敗を決定する。
5. 「特別延長ルール」は無死走者 1・2 塁、打者は前イニングからの継続とし、走者はその打者からさかのぼった打順からそれぞれ 1 塁走者・2 塁走者とする。
6. 5 回以降 7 点以上の差があるときは、コールドゲームを採用する。（決勝戦は除く）
7. 試合開始後、雨等による試合の続行が審判員によって不可能と判断された時、5 回表の攻撃が完了して、後攻チームが勝っている場合は、成立試合としてコールドゲームを宣言する。
それ以前において中止された試合は、成立試合とならず再試合とする。
8. 本大会の熱中症対策として、守備機会時間が約 15 分を越えた場合、プレイ中のタイミングを図り、給水タイム 5 分を採用する。試合時間に換算しないものとする。（本部計時）
9. ベンチに入れる者は、事前に登録されていえる代表・監督・コーチ・スコアラー・選手とする。
スコアラー及びマネージャーは選手が兼ねることができる。なお、選手については「選手登録名簿」に記載されている選手(30 名以内)の中から 25 名(1 試合毎に変更が可能)までとする。
10. 投手の投球制限については、大会1日の投球数は100球までとする。 試合中に100球に到達した場合はその打者が打撃を完了するまで投球できる。1 週間の投球総数は350球までとする。
11. 試合の投球練習は最初に登板した時のみ 5 球とし、それ以降は 3 球とする。
12. 試合はピッチクロックを採用する。投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受け取り後、走者がいない場合は 12 秒以内、走者がいる場合には 20 秒以内に投球動作を開始しなければならない。 原則、2 塁審が計測し違反した場合、球審はただちにボールを宣告する。
13. ベンチは組合せ番号の若い方を一塁側とする。
14. 危険防止のため、捕手は試合、投球練習・ブルペンに関わらず必ずレガース・ヘルメット・プロテクターを着用すること。ファールカップも着用すること。
15. バッター及びランナーは必ずヘルメットを着用すること。（ランナーコーチもヘルメットを着用すること。）
ベンチ前ノック時の補助選手は、捕手メットか打者ヘルメットを着用。
16. 手袋の使用については、白か黒を基調としたものとする。
17. 抗議は、監督だけが行うことができる。ただし、ストライク・ボール・アウト・セーフ・ボークに対する抗議は認めない。また、必要以上の抗議は認めない。
18. その他の競技規則は、全日本軟式野球連盟のルールに基づくものとする。

